

# 子どもが認知する両親の養育スキルと 子どもの自己開示、学校適応感との関連

渡 邊 賢 二 (皇學館大学教育学部)

加 藤 理 恵 (各務原市立那加第二小学校)

〈要旨〉 子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連について、小学5年生から中学3年生を対象に質問紙調査を実施した。まず、父母別、性別、学年別による養育スキル尺度下位尺度の理解尊重スキルと道徳性スキルの差異を検討した。理解尊重スキルについては、父親より母親、男子より女子、小学5年生と中学3年生より小学6年生、中学3年生より中学1年生の方が有意に高い得点を示した。道徳性スキルについては、父親より母親、男子より女子が有意に高い得点を示した。また母親では中学2年生と中学3年生より小学6年生、父親では中学3年生より小学6年生と中学1年生、また小学5年生と中学2年生より小学6年生、小学5年生と中学1年生と中学3年生では父親より母親の方が有意に高い得点を示した。また父親より母親、男子より女子、中学3年生より小学6年生と中学1年生、小学5年生と中学2年生より小学6年生の方が有意に高い得点を示した。次に、両親の養育スキルが子どもの自己開示を媒介して、学校適応感を予測するのかを検討するために、小学生と中学生別による多母集団同時分析を行った。小学生において、体験開示には父親の理解尊重スキルから、感傷開示には母親の理解尊重スキルからのパスが有意であった。友人関係には感傷開示と母親の理解尊重スキルから、学習関係には感傷開示と母親の理解尊重スキルと母親の道徳性スキルから、教師

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

関係には感傷開示と母親の道徳性スキルから、学校全体には感傷開示と母親の理解尊重スキルからのパスが有意であった。中学生において、感傷開示には父親の理解尊重スキルからのパスが有意であった。友人関係には体験開示と感傷開示と母親の道徳性スキルから、学習関係には感傷開示と母親の理解尊重スキルと母親の道徳性スキルから、教師関係には感傷開示と母親の理解尊重スキルから、学校全体には感傷開示と母親の理解尊重スキルと母親の道徳性スキルからのパスが有意であった。

〈キーワード〉 養育スキル、母親と父親、自己開示、学校適応感

### 【問題と目的】

小学生から中学生になると自己や環境が変化するとされている（Steinberg& Silk,2002）。自己の変化とは、身体的な成長・発達、性的成熟、自我の発達などであり、環境の変化とは、学校移行をすることにより、教科担任制、授業の困難さ、友人関係の変化、部活動の問題などで、多様であると言われている。このような自己や環境の変化とともに、親子関係も変化するとされている（村上、2011；渡邊・平石・谷、2020 など）。落合・佐藤（1996）は児童期から青年期にかけての親子関係は5段階を経過して心理的離乳へ向かって発達的に変化していき、児童期の親子関係は「親が子どもを守る段階」、青年期の親子関係は「子どもが困ったときに親が支援する段階」「子どもが親から信頼・承認される段階」であり、変化することを指摘している。さらに、Steinberg & Silk（2002）や渡邊・平石（2007）は、子どもの心身の変化に伴って、親との葛藤や自律性の問題が顕在化してくるが、子どもの心理的適応には親の養育態度の変化が重要であると述べている。これらより、小学生から中学生にかけて、子ども自身の変化とともに、親子関係も変化し、子どもの適応感を維持するには親の養育態度が重要であると考えられる。

これまでの青年期の親子関係として、親の養育態度と子どもの適応感との関連について、欧米や我が国でも数多く研究されてきている。これらの多くの研究は、親の受容や温かい養育態度が子どもの適応感に良い影響を及ぼすとい

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

う報告である（Maccoby & Martin, 1983; 辻岡・山本, 1976, 1977; 内海, 2013 など）。そこで、渡邊・平石（2007）はこれまでの青年期の親子関係は子どもの心理社会的発達を促進する親の養育態度に焦点をあてており、これと同様に、青年期の親子関係は子どもと親が相互的に影響を及ぼしあっていると考え、相互調整的な養育態度が重要であると報告している。そこで、子どもと良好な関係を構築・維持する親の養育態度を養育スキルと呼び、道徳性スキル、自尊心スキル、理解関心スキルの3因子から構成される養育スキル尺度を作成している。また、渡邊・平石・信太（2009）は、母親の養育スキルはまず子どもの母子相互信頼感に影響を及ぼし、そして子どもの心理的適応に影響を及ぼすという媒介変数モデルを検討している。その結果、子どもの行動を観察したり、コミュニケーションを用いて、子どもに対する理解を深めるという理解関心スキルは、子どもの母子相互信頼感を向上させ、子どもの母子相互信頼感は心理的適応に良い影響を及ぼすと述べている。

これら一連の研究は、中学生とその母親を対象として実施している。小学高学年から中学生にかけて、上述のように子ども自身や親子関係の変化が考えられるため、小学高学年から中学生を対象として検討する必要があると思われる。そこで、渡邊・平石・谷（2020）は小学5年生から中学3年生とその母親を対象に、渡邊・平石・信太（2009）の媒介変数モデルをベースとして検討を行った。その結果、理解尊重スキルと道徳性スキルの2因子から構成される養育スキル尺度を見出した。また、中学生より小学生、男子より女子の方が理解尊重スキルと道徳性スキルの得点が有意に高かった。さらに、小中学生と男女共に、理解尊重スキルから母子相互信頼感に、理解尊重スキルと母子相互信頼感から心理的適応に影響を及ぼしていたと報告している。これらの研究は、小学5年生から中学3年生とその母親を対象としており、これまでの研究も子どもとその母親を対象としている研究が多いと考えられる。現代の家族構成は多様であるが、父親と母親、その子どもという家族構成が最も多いと思われる。また母親と子どもの関係だけでなく、父親と子どもの関係も子どもの発達や適応に影響を及ぼすことが指摘されている（数井・無藤・園田, 1996）。そこで、本研究は小学5年生から中学3年生を対象に、子どもが母親と父親の養育スキルを

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）  
どの程度認知しているか検討する。

次に、子どもの性別や学年による養育態度の相違について述べる。渡邊・平石・谷（2020）は子どもが認知する母親の養育スキルは男子より女子の方が用いている頻度が多かったと報告している。Steinberg & Silk（2002）や Renk, Liljequist, Simpson, & Phares（2005）も子どもの性別により親の養育態度には相違があることを述べている。また、落合・佐藤（1996）や村上（2011）は児童期から青年期の親子関係や親の養育態度には変化があると述べている。これらより、父親と母親、性別、学年により、養育スキルには差異が認められるのか検討する。

次に、親の養育態度と自己開示との関連について述べる。まず、自己開示とは、他者が知覚しうるように自分自身をあらわにする行為であるとし、さらに自分にとって重要な他者に十分に自己開示できるということは健康なパーソナリティにとって必須の条件であると言われている（Jourard, 1959）。Snoek & Rothblum（1979）は高校生と大学生を対象に調査を実施し、両親の愛情の豊かさが両親に対する自己開示だけでなく、友だちに対する自己開示度の高さとも関係していると述べている。榎本・林（1983）は家庭の雰囲気や両親の態度に対して肯定的なイメージを抱いている人は、友人に対して自己を開く傾向にある。また中学生は、学校での悩み事や心配事、恋愛や友人関係での悩み事を母親や教師に相談する人ほど友人によく自己開示していると報告している。これらより、親との関係が良好な人ほど、友人に自己開示をしているといえよう。本研究では、母親と父親の養育スキルが子どもの自己開示にどの程度影響を及ぼすのか検討する。

最後に、子どもの自己開示と学校適応感との関連について述べる。小野寺・河村（2002）は中学生を対象に調査を行い、自己開示が高い生徒は学校生活の満足度やスクールモラルが高く、また中学生は学級の中で自己開示することにより学級全体への適応を高めていると述べている。これらより、子どもの自己開示は心理的適応に良い影響を及ぼしているといえよう。本研究では、子どもの自己開示が学校適応感にどの程度影響を及ぼしているのか検討する。

以上の問題意識より、本研究は小学5学年から中学3年生を対象として、第

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）  
一に、母親と父親、性別、学年による養育スキルの差異を検討する。第二に、渡邊・平石・谷（2020）の媒介変数モデルを参考にして、子どもが認知する両親の養育スキルが子どもの自己開示を媒介して、学校適応感を予測するのか検討する（Figure1）。

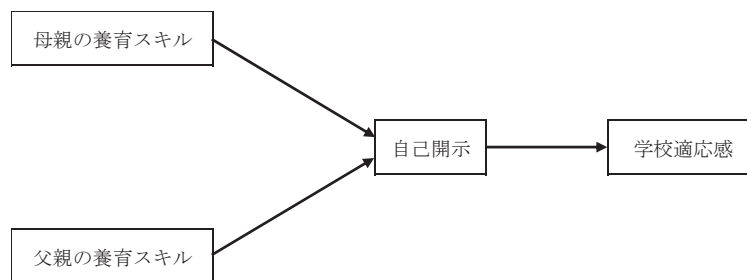


Figure1 両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感の媒介変数モデル

## 【方 法】

1. 調査対象者：小学5年生から中学3年生 620人、内訳は男子 311人、女子 309人、小学5年生 188人、小学6年生 136人、中学1年生 114人、中学2年生 76人、中学3年生 106人であった。
2. 調査時期：2019年7月上旬～9月上旬
3. 調査内容
  - (1) 基本的属性：学年、性別、家族構成を尋ねた
  - (2) 養育スキル尺度：渡邊・平石・谷（2020）が作成した子ども用の養育スキル尺度 16項目を用いた。「1. あてはまらない」～「5. あてはまる」の5段階評価（1点～5点）で回答を求めた。理解尊重スキル 10項目と道徳性スキル 6項目から構成されている。母親と父親に対する養育について回答を求めた。理解尊重スキルとは、「子どもに肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり、コミュニケーションを用いて子どもに対する理解を深める態度を示す」、道徳性スキルとは、「子どもに日常生活における規範、慣習、生活態度を教示している」である。

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

(3) 自己開示尺度：岡田（2010）が作成した児童用自己開示尺度 10 項目を用いた。「1. あてはまらない」～「5. あてはまる」の 5 段階評価（1 点～5 点）で回答を求めた。体験開示 7 項目，感傷開示 3 項目から構成されている。

(4) 学校適応感尺度：石田（2009）が作成した学校適応感尺度を用いた。ただし，調査を実施する学校と話し合いを実施し，下位尺度である友人関係 3 項目，学習関係 3 項目，教師関係 3 項目，学校全体 3 項目を用いた。「1. あてはまらない」～「5. あてはまる」の 5 段階評価（1 点～5 点）で回答を求めた。

#### 4. 手続きと倫理的配慮

アンケート調査を実施する前に，学校長や担任教諭が質問項目を確認した。調査を実施する際は，担任教諭がアンケート調査に記述してある文章を読み，実施するにあたっては子どもが選択するように依頼した。調査表には，プライバシー保護，回答の自由，学校の成績には関係がないことについて明記し，参加に同意する場合のみ質問に回答することを記述した。アンケート調査を実施した後，担任教諭がすぐに回収した。

### 【結 果】

#### 1. 各尺度の平均得点（SD）と信頼性係数（ $\alpha$ 係数）

母親の養育スキル尺度下位尺度である理解尊重スキルの平均得点（SD）と信頼性係数（ $\alpha$  係数）は 3.90（.86）， $\alpha = .88$ ，道徳性スキルは 4.45（.66）， $\alpha = .81$ ，父親の理解尊重スキルは 3.80（.93）， $\alpha = .90$ ，道徳性スキルは 4.31（.81）， $\alpha = .86$ であった。自己開示尺度下位尺度である体験開示は 3.46（.93）， $\alpha = .83$ ，感傷開示は 3.26（1.26）， $\alpha = .90$ ，学校適応感尺度の下位尺度である友人関係は 4.31（.89）， $\alpha = .81$ ，学習関係は 3.75（1.07）， $\alpha = .87$ ，教師関係は 3.72（1.08）， $\alpha = .85$ ，学校全体は 3.68（1.08）， $\alpha = .87$ であった。

#### 2. 父母別，性別，学年別による養育スキルの三要因分散分析

父母別，性別，学年別による養育スキル尺度下位尺度である理解尊重スキルと道徳性スキルの差異を検討するために，父母，性別，学年を独立変数，理解尊重スキル得点と道徳性スキル得点を従属変数とした三要因分散分析を実施し

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

た（Table1）。その結果、理解尊重スキルについては、父親より母親（ $p<.01$ ），男子より女子（ $p<.01$ ），小学5年生と中学3年生より小学6年生，中学3年生より中学1年生（ $p<.001$ ）の方が有意に高い得点を示した。道徳性スキルについては、交互作用が有意であった。単純主効果検定（Bonferroni 法）を行ったところ，母親では中学2年生と中学3年生より小学6年生（ $p<.01$ ），父親では中学3年生より小学6年生と中学1年生（ $p<.01$ ），また小学5年生と中学2年生より小学6年生（ $p<.01$ ），小学5年生と中学1年生と中学3年生では父親より母親（ $p<.01$ ）の方が有意に高い得点を示した。また父親より母親（ $p<.01$ ），男子より女子（ $p<.05$ ），中学3年生より小学6年生と中学1年生，小学5年生と中学2年生より小学6年生（ $p<.001$ ）の方が有意に高い得点を示した。また，父親より母親（ $p<.001$ ），男子より女子（ $p<.05$ ），中学3年生より小学6年生と中学1年生，中学3年生より中学1年生（ $p<.001$ ）の方が有意に高い得点を示した。

Table1 養育スキルにおける父母，性別，学年による3要因分散分析

	小5	小6	中1	中2	中3	父母	性別	学年	交互作用
<理解尊重スキル>									
母親 男子	3.82	4.03	3.89	3.66	3.52	10.06**	8.78**	6.58***	親×性別：.36
SD	.75	.65	.77	1.04	.84	$\eta_p^2=.017$	$\eta_p^2=.015$	$\eta_p^2=.044$	親×学年：1.87
女子	3.96	4.12	4.13	4.10	3.80	父<母	男<女	小5，中3<小6	性別×学年：.40
SD	.93	.82	.93	.75	1.02			中3<中1	親×性別×学年：.43
父親 男子	3.64	4.06	3.78	3.62	3.42				
SD	.93	.74	.86	1.05	.90				
女子	3.84	4.18	3.98	3.97	3.54				
SD	1.00	.76	1.05	.76	1.04				
<道徳性スキル>									
母親 男子	4.36	4.55	4.51	4.03	4.26	28.89***	5.40*	6.39***	親×性別：3.05
SD	.62	.54	.52	1.12	.66	$\eta_p^2=.046$	$\eta_p^2=.009$	$\eta_p^2=.041$	親×学年：4.30**
女子	4.52	4.64	4.50	4.54	4.42	父<母	男<女	中3<小6，中1	性別×学年：1.23
SD	.64	.46	.71	.56	.69			小5，中2<小6	親×性別×学年：.77
父親 男子	4.20	4.52	4.42	4.12	3.99				親：母：中2，中3<小6
SD	.88	.52	.60	1.05	.97				父：中3<中1，小6
女子	4.31	4.65	4.32	4.37	4.08				小5，中2<小6
SD	.86	.42	.93	.70	.91				学年：小5，中1，中3：父<母

\*\*\* $p<.001$ ，\*\* $p<.01$ ，\* $p<.05$



子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

### 3. 小学生・中学生別の両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連

小学生と中学生の母親の養育スキルに差異が認められていることにより（渡邊・平石・谷，2020），小学生と中学生別による両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連を検討するために、ピアソンの積率相関係数を求めた（Table2）。その結果，小学生と中学生ともに，母親と父親の養育スキル下位尺度である理解尊重スキル，道徳性スキルと子どもの自己開示下位尺度である体験開示，感傷開示，学校適応感下位尺度である友人関係，学習関係，教師関係，学校全体との間には有意な正の相関関係を認められた。

Table2 小学生と中学生別の両親の養育スキルと自己開示、学校適応感との相関関係

		自己開示		学校適応感			
		体験開示	感傷開示	友人関係	学習関係	教師関係	学校全体
母 親	理解尊重スキル	.32***/.27***	.30***/.27***	.37***/.26***	.33***/.37***	.27***/.32***	.36***/.41***
	道徳性スキル	.25***/.27***	.18**/.23***	.26***/.37***	.35***/.39***	.24***/.29***	.30***/.43***
父 親	理解尊重スキル	.36***/.30***	.24***/.30***	.32***/.27***	.26***/.31***	.27***/.32***	.30***/.35***
	道徳性スキル	.31***/.30***	.21***/.21***	.22***/.28***	.25***/.35***	.26***/.29***	.26***/.42***
自己開示	体験開示	—	—	.32***/.36***	.25***/.26***	.29***/.27***	.27***/.29***
	感傷開示	—	—	.39***/.40***	.33***/.32***	.36***/.36***	.27***/.34***

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$

(左：小学生 / 右：中学生)

次に，渡邊・平石・谷（2020）のモデルを参考にして，小学生と中学生別による子どもが認知する両親の養育スキルが子どもの自己開示を媒介して，学校適応感を予測するのかを検討するために，多母集団同時分析を行った（Figure2, Figure3）。モデルの適合度は， $\chi^2=23.732$  (n.s.)， $df16$ ，CFI=.997，RMSEA=.028であった。適合度指標については，CFIは1.00に近いほど，RMSEAは.00に近いほどデータとモデルの適応度が望ましいと言われており（豊田，1998），十分な値を示しているといえる。

小学生において，体験開示には父親の理解尊重スキル（ $\beta = .20, p < .05$ ）から，感傷開示には母親の理解尊重スキル（ $\beta = .28, p < .001$ ）からのパスが有意であった。友人関係には感傷開示（ $\beta = .25, p < .001$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .27, p < .001$ ）から，学習関係には感傷開示（ $\beta = .23, p < .001$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .14, p < .05$ ）と母親の道徳性スキル（ $\beta = .22, p < .001$ ）から，教師関係には感傷開示（ $\beta = .27, p < .001$ ）と母親の道徳性スキル（ $\beta = .13, p < .05$ ）



子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

から、学校全体には感傷開示（ $\beta = .13, p < .05$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .25, p < .001$ ）からのパスが有意であった。中学生において、感傷開示には父親の理解尊重スキル（ $\beta = .19, p < .05$ ）からのパスが有意であった。友人関係には体験開示（ $\beta = .13, p < .05$ ）と感傷開示（ $\beta = .27, p < .001$ ）と母親の道徳性スキル（ $\beta = .28, p < .001$ ）から、学習関係には感傷開示（ $\beta = .21, p < .001$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .17, p < .05$ ）と母親の道徳性スキル（ $\beta = .24, p < .001$ ）から、教師関係には感傷開示（ $\beta = .27, p < .001$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .16, p < .05$ ）から、学校全体には感傷開示（ $\beta = .21, p < .001$ ）と母親の理解尊重スキル（ $\beta = .19, p < .01$ ）と母親の道徳性スキル（ $\beta = .26, p < .001$ ）からのパスが有意であった。

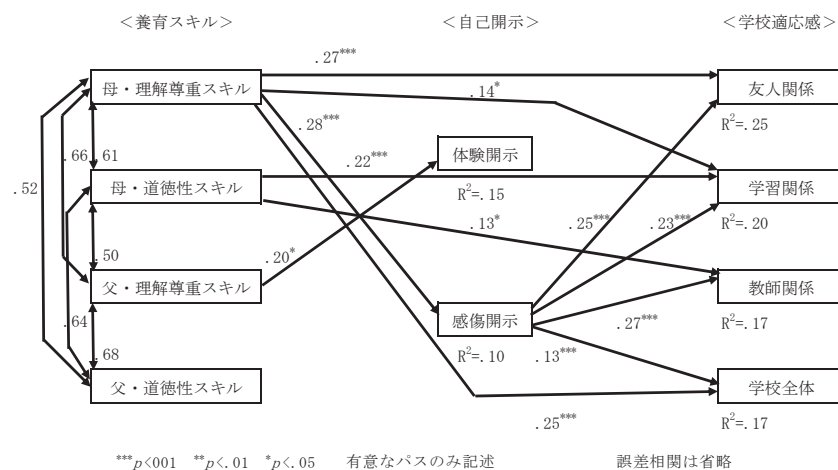


Figure2 両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（小学生）

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

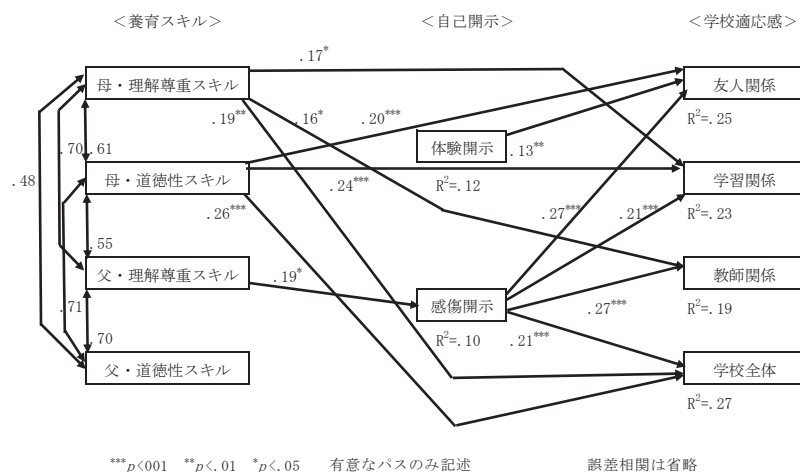


Figure3 両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（中学生）

## 【考 察】

### 1. 母親と父親、性別、学年による養育スキルの三要因分散分析について

養育スキル尺度下位尺度である理解尊重スキルと道徳性スキルについて、母親と父親、性別、学年による差異を検討するために、三要因分散分析を実施した。その結果、理解尊重スキルについては、父親より母親、男子より女子、小学5年生と中学3年生より小学6年生、中学3年生より中学1年生の方が高い得点を示した。道徳性スキルについては、父親より母親、男子より女子、中学3年生より小学6年生と中学1年生、小学5年生と中学2年生より小学6年生の方が高い得点を示した。理解尊重スキルと道徳性スキルは同様の結果であると考えられる。これまでは、母子を対象として研究を行っており（渡邊・平石・谷，2020），その際には子どもが認知する理解尊重スキルと道徳性スキルについては、男子より女子、中学生より小学生の方が高い得点を示したと述べている。本研究とは、性別については同様の結果であるが、学年については小学5年生が若干低い得点を示しており、子どもが認知する父親の理解尊重スキルを加えたため、相違が認められたと考えられる。また、子どもは父親より母親の方が理解尊重スキルと道徳性スキルを用いていると認知している。子どもは母

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

親の方が肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度やコミュニケーションを用いていること、日常生活で規範、慣習、生活態度を教える行動をとっていることと認知していると思われる。石田・谷山（2017）は父親より母親の方が子どもとの会話頻度が高く、学校での出来事、友だちのこと、勉強や成績のこと、将来や進路のことなどについて会話していると述べている。また石田・谷山（2017）は、学校での出来事や友だちのことについては、中学生より小学生の方が母親との会話頻度が高いとも報告している。これらの研究結果は本研究と類似していると考えられる。

しかし、母親の理解尊重スキル得点は3.90、道徳性スキル得点は4.45、父親の理解尊重スキル得点は3.80、道徳性スキル得点は4.31であり、高い得点（5点満点）を示していると思われる。子どもは父親も理解尊重スキルと道徳性スキルを用いていると認知していると推察できる。また父親も母親と同様、日常生活において、頻繁に規範や生活態度について教示していると子どもは認知していると考えられる。先述の石田・谷山（2017）の研究結果においても、小学高学年は学校での出来事を母親と会話しているが89.1%、父親とは61.2%、中学生は友だちのことを母親と会話しているが88.2%、父親とは42.7%であった。この研究結果も本研究と類似した結果であると推察できる。

## 2. 小学生・中学生別の両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連について

子どもが認知する母親と父親の養育スキルが子どもの自己開示を媒介して、学校適応感をどの程度予測するのか、小学生と中学生別に検討した。小学生では、母親の理解尊重スキルが感傷開示、友人関係、学習関係、学校全体を、母親の道徳性スキルは学習関係、教師関係を予測していた。父親の理解尊重スキルが体験開示を予測していた。感傷開示が友人関係、学習関係、教師関係、学校全体を予測していた。母親が日常生活において、子どもに肯定的なメッセージや自立・成長を促進する態度を示したり、コミュニケーションを用いて子どもに対する理解を深める態度を示すことが、子どもの落ち込んだときや悲しいときに友人に開示し、その開示が友人関係や学習関係などの学校適応感を予測

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）  
している。これらより、小学高学年では母親の理解尊重スキルが重要であるといえよう。

中学生では、母親の理解尊重スキルが友人関係、教師関係、学校全体を、母親の道徳性スキルが友人関係、学習関係、学校全体を予測していた。父親の理解尊重スキルが感傷開示を予測していた。体験開示が友人関係を、感傷開示が友人関係、学習関係、教師関係、学校全体を予測していた。母親の理解尊重スキルは体験開示や感傷開示を予測しておらず、直接学校適応感を予測しており、小学高学年と同様に、母親が理解尊重スキルを用いて子どもと関わることは重要であると考えられる。また小学高学年と同様、感傷開示が友人関係や学習関係などの学校適応感には重要であるが、母親からではなく、父親からの理解尊重スキルが感傷開示を予測しており、小学高学年より中学生において父親の関与の重要性が示唆された。菅原・八木下・訖摩・小泉・瀬地山・菅原・北村(2002)は母親の養育の温かさは子どもの抑うつに抑制させるが、父親の養育の温かさは影響を及ぼさないと述べている。この研究は親を対象者に調査を実施しており、本研究の調査対象者とは相違があるが、今後は検討する必要があると思われる。

渡邊・平石・谷（2020）は、Cui, Morris, Criss, Houlberg, & Silk（2014）や Morris, Silk, Steinberg, Myers, & Robinson（2007）の研究より媒介変数モデルの重要性を指摘している。本研究でも同様に、母親と父親の養育スキルが子どもの自己開示を予測し、子どもの自己開示が学校適応感を予測するというモデルを実証することができたと思われる。また、これまでは母親と子どもを対象とした研究がほとんどであったが（渡邊・平石, 2007; 渡邊・平石・信太, 2009; 渡邊・平石・谷, 2020 など）、子どもが母親と父親の養育スキルをどの程度認知しているかという視点はこれまでの研究ではほとんどみられず、新しい知見を提供できたと思われる。

### 【今後の課題】

本研究は小学5年生から中学3年生を対象に横断的に質問紙調査を実施した。小高・紺田（2015）は青年期の親子関係を明らかにするためには、子ど

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

もと親のそれぞれに焦点をあてることは重要であるが、子どもと親が相互に影響を与えているため、相互作用という観点から親子関係を捉えることは重要であると述べている。本研究も同様に、母親、父親、子どもという3者から親子関係を捉える必要があるだろう。

次に、本研究は横断的に調査を実施したが、子どもの成長・発達と共に、親の養育態度は変化すること（落合・佐藤，1996 など）、また横断的調査と縦断的調査の結果には、相違が認められる可能性がある指摘されていることから（岡林，2006）、今後は、縦断的調査を実施し、母親と父親の養育スキルの認知変化の相違を検討する必要があるだろう。

本研究は、調査対象者数の関係により、小学生と中学生別の検討に加えて、性別による検討ができなかった。母親と父親、子どもの性別によって、子どもと親の関係性には相違があると思われる。特に、母親－娘関係については距離間が近いと言われており（水本，2019）、父親－息子、母親－息子、父親－娘との関係とは相違があると推察される。今後、検討する必要があるだろう。

## 【文 献】

Cui, L., Morris, A.S., Criss, M.M., Houlberg, B.J., & Silk, J.S. (2014) . Parental psychological control and adolescent adjustment: The role of adolescent emotion regulation. *Parenting: Science and Practice*, **14**, 47-67.

榎本博明・林洋一（1983）. 中学生の生活意識（Ⅱ） 日本教育心理学会第25回総会発表論文集, 76-77.

石田浩・谷山和成（2017）. 子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016－親子パネル調査にみる意識と実態の変化－ ベネッセ教育総合研究所.

石田靖彦（2009）. 学校適応感尺度の作成と信頼性、妥当性の検討－生徒評定と教師評定を用いた他特性－他方法相関行列からの検討－ 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, **12**, 287-292.

Jourard, S.M. (1959) . Self-disclosure and other-excathexis. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, **59**, 428-431.

数井みゆき・無藤隆・園田菜摘（1996）. 子どもの発達と母子関係・夫婦関係：幼児

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

を持つ家族について 発達心理学研究, **7**, 31-40.

小高恵・紺田広明（2015）. 中学生の母娘関係の日々の相互作用の分析青年心理学研究, **26**, 109-128.

Maccoby, E., & Martin, J. (1983). Socialization in the context of the family: Parent-child interaction. In E. M. Hetherington (Vol. Ed.) & P. H. Mussen (Series Ed.), *Handbook of child psychology: Vol. 4. Socialization, personality, and social development* (pp. 1-101). New York: Wiley.

水本深喜（2019）. 青年期から成人期への移行期にある女性の母親との関係の発達の变化－精神的自立と親密性の視点から－ 青年心理学研究, **30**, 115-129.

Morris, A. S., Silk, J. S., Steinberg, L., Myers, S. S., & Robinson, L. R. (2007). The role of the family context in the development of emotion regulation. *Social Development*, **16**, 361-388.

村上達也（2011）. 子どもの学年段階別による母親の子育て意識とその実態 第4回子育て生活基本調査（小中版）（pp. 109-119）ベネッセ教育総合研究所

落合良行・佐藤有耕（1996）. 親子関係の変化からみた心理的離乳への過程の分析教育心理学研究, **44**, 11-22.

岡林秀樹（2006）. 発達研究における問題点と縦断データの解析方法パーソナリティ研究, **15**, 76-86.

岡田弘（2010）. 児童用自己開示尺度の構成 教育カウンセリング研究, **3**, 20-26.

小野寺正巳・河村茂雄（2002）. 中学生の学級内における自己開示が学級への適応に及ぼす効果に関する研究 カウンセリング研究, **35**, 47-56.

Renk, K., Liljequist, L., Simpson, J. E., & Phares, V. (2005). Gender and age difference in the topics of parent-adolescent conflict. *The Family Journal*, **13**, 139-149.

Snoek, D., & Rotheblum, E. (1979). Self-disclosure among adolescents in relation to parental affection and control patterns. *Adolescence*, **14**, 333-340.

Steinberg, L., & Silk, J. S. (2002). Parenting adolescents. In M. H. Bornstein (Ed.), *Handbook of Parenting: Vol. 1: Individual differences in parenting adolescents* (pp. 116-119). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

菅原ますみ・八木下暁子・詫摩紀子・小泉智恵・瀬地山葉矢・菅原健介・北村俊則（2002）.  
夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連－家族機能及び両親の養育態度を  
媒介して－ 教育心理学研究, **50**, 129-140.

豊田秀樹（1998）. 共分散構造分析（入門編）：構造方程式モデリング 朝倉書店.

辻岡美延・山本吉廣（1976）. 親子関係診断尺度 E I C A の作成 関西大学社会学部  
紀要, **7**, 1-14.

辻岡美延・山本吉廣（1977）. 親子関係の相互認知：小嶋氏の実資料の分析 教育  
心理学研究, **25**, 18-29.

内海緒香（2013）. 青年期養育尺度（PAS）の作成 心理学研究, **84**, 238-246.

渡邊賢二・平石賢二（2007）. 中学生の母親の養育スキル尺度の作成：学年別による  
自尊感情との関連 家族心理学研究, **21**, 106-117.

渡邊賢二・平石賢二・信太寿理（2009）. 母親の養育スキルと子どもの母子相互信頼感,  
心理的適応との関連 家族心理学研究, **23**, 12-22.

渡邊賢二・平石賢二・谷伊織（2020）. 児童期後期から青年期前期の子どもと母親が  
認知する養育スキルと母子相互信頼感, 子どもの心理的適応との関連：母子ペアデー  
タによる検討 発達心理学研究, **31**, 1-11.

## 付記

本論文は第2著者が皇學館大学教育学部に提出した卒業論文のデータを再分  
析し、加筆・修正したものです。本研究に協力してくださいました鈴鹿市教育  
委員会、小学校教諭、中学校教諭、小学生、中学生のみなさまに深く感謝申し  
あげます。



子どもが認知する両親の養育スキルと子どもの自己開示、学校適応感との関連（渡邊・加藤）

Examining relationships between parenting skills, self-disclosure,  
and school adjustment

Kenji Watanabe (Education Department, Kogakkan University)

Rie Kato (Nakadaini Elementary School in Kakamigahara city)

#### Abstract

The purpose of this study was to investigate the difference of parenting skills among mothers, fathers, sexes, and school grades. It also investigated whether the parenting skills of mothers and fathers predicted self-disclosure and school adjustment, and whether self-disclosure predicted school adjustment by using a questionnaire to students from the fifth grade of elementary school to the third grade of junior high school. The results showed that children scored parenting skills of mothers higher than those of fathers. Girls scored higher than boys in parenting skills. Also, elementary school student scored higher than junior high school students in parenting skills. As to elementary school students, understanding-respect skills of mothers predicted self-disclosure and school adjustment. Morality skills of mother predicted school adjustment. Understanding-respect skills of fathers predicted self-disclosure. Self-disclosure predicted school adjustment. As to junior high school students, understanding-respect skills and morality skills of mothers predicted school adjustment. Self-disclosure predicted school adjustment.

Keywords : parenting skills, mother and father, self-disclosure, school adjustment